

会 議 録

会 議 名	平成30年度第1回小金井市立はけの森美術館運営協議会		
事 務 局	市民部 コミュニティ文化課 (はけの森美術館)		
開 催 日 時	平成30年5月15日(火) 18時30分～19時40分		
開 催 場 所	市立はけの森美術館 多目的講義室		
出 席 委 員	鉄矢悦朗会長 山村仁志委員 上原佐世子委員 川崎京子委員 浜田真二委員 鈴木遵矢委員		
欠 席 委 員	なし		
事 務 局 員	薩摩学芸顧問 コミュニティ文化課文化推進係 吉川、永井 同 はけの森美術館学芸員 鈴木、中村		
傍 聴 の 可 否	可		
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由		傍聴者数	0人
会 議 次 第	1 所蔵作品展「没後50年 中村研一の制作—日常風景とともに」観覧 2 委嘱状の交付 3 委員自己紹介 4 事務局紹介 5 正副会長互選 6 運営協議会の運営等について 7 事業実施報告等 8 平成30年度の事業予定と予算について 9 その他 花侵庵について、意見交換等、次回運営委員会日程調整		
会 議 結 果	別紙のとおり		
会 議 要 旨	別紙のとおり		
提 出 資 料	1 開催した展覧会・ワークショップ等及び今後の予定 2 平成30年度年間スケジュール 3 開催したワークショップのアンケート 4 平成30年度予算状況について 5 茶室「花侵庵」資料		

平成30年度 第1回小金井市立はけの森美術館運営協議会

平成30年5月15日（火）

【鈴木委員（館長）】 皆様、こんにちは。本日はご多忙の中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。ただいまより、平成30年度第1回小金井市立はけの森美術館運営協議会を開会いたします。

この運営協議会は、改選後の新たな任期の第1回目となりますことから、正副会長の互選を行う必要がございます。そのため、会長が選任されるまでの間、甚だ恐縮ではございますが、当館館長を務めております、私、コミュニティ文化課長、鈴木のほうで進行させていただきますので、よろしくお願いいたします。

次第の1の展覧会の観覧につきましては、既に皆様、ごらんいただいたかと思っておりますので、次の議題に進ませていただきます。

委嘱状の交付です。委嘱状についてですが、皆様のお手元に配付をさせていただいておりますので、ご確認をお願いいたします。本来であれば、市長が参りまして委嘱状を交付するところ、市長は他の公務のため、本日欠席とさせていただいております。そのため、机上に配付をさせていただきました。市長からは、くれぐれもよろしくお伝えくださいということでございますので、よろしくお願いいたします。

次に、委員の自己紹介を行います。お手数ですが、席の順に一言ずつご挨拶をお願いいたします。最初に私のほうから。引き続きコミュニティ文化課長を今年度も拝命しております、館長の鈴木遵矢と申します。コミュニティ文化課長と、この美術館の兼任ということで、あまり美術の関係は得意じゃないんですけども、いろいろ教えていただきながら今年度も進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【浜田委員】 4月1日に指導室長になりました、浜田といいます。どうぞよろしくお願いいたします。指導室というところは、教育のほうで小学校、中学校の指導に当たっているところなんですけれども、ここは教育普及事業としてやっていただいて、鑑賞教室、小学校9校あるんですけれども、全校の生徒がこちらにお邪魔してやっている関係もありまして、私は一委員の形で参加させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

【山村委員】 前回に引き続きまして、委員をやらさせていただきます、東京都美術館の学芸担当課長の山村と申します。以前に府中市美術館、もう3年以上前になりますけれど

も、副館長までやりまして、ここ、はけの森美術館については、すごく親しい感じを持っております。住まいは飯能で遠いんですけども、何かとこちらのほうには参りますので、よろしくをお願いします。

【鉄矢委員】 東京学芸大学の鉄矢と申します。大学ではデザインを教えております。はけの森美術館は、ほぼ毎日に近い状態で、目の前を行ったり来たりしていますので、どんな様子なのかなと思ったり、庭の木の手入れも大変そうだなと思ったりもしております。委員頑張ります。よろしくをお願いします。

【上原委員】 前回に引き続き委員をさせていただきます、緑町に住んでおります上原佐世子と申します。ますます小金井のこの美術館が市民にとって大切な存在であるように、そしてまた、私自身も成長できるように頑張っていきますので、よろしくをお願いします。

【川崎委員】 私も引き続き、また、気持ちも新たに応募させていただきました、川崎と申します。専門的なことはあまりまだわからないんですけども、好きな美術館に1人でもたくさんのお客さんに来てもらえるように、意見できることがあれば、どんどん積極的に発言していこうと思っています。よろしくをお願いします。

【鈴木委員（館長）】 着座ですいません。失礼いたします。ありがとうございました。次に、事務局の紹介をさせていただきます。

まず、当館の学芸顧問をお願いしております、薩摩雅登先生です。

【薩摩学芸顧問】 薩摩です。開館のときから学芸顧問を務めさせていただいていますけれども、本職は芸大の美術館のほうの教員で、目下、全く専門外の「西郷どん」の展覧会をNHKに泣きつかれまして準備しております。いつもこういう大河ドラマ関係の展覧会は江戸東京博物館でやるんですけども、今、改修工事で使えないということで。ただ……、写真が1枚も残っていない西郷隆盛のイメージをつくり上げたのは西郷隆盛像で、それは開校当時の東京美術学校が9年の歳月をかけてつくり上げた像で、東京芸術大学とは関係があるということで引き受けたのですけれども、来週金曜日にオープニングで、土曜日からですので、ぜひごらんになってください。よろしくをお願いします。

【鈴木委員（館長）】 次に、事務局担当として、文化推進係長の永井でございます。

【事務局（永井）】 永井と申します。引き続き、またよろしくお願いいいたします。

【鈴木委員（館長）】 次に、専任主査の吉川でございます。

【事務局（吉川）】 私も引き続き、どうぞよろしくお願いいいたします。

【鈴木委員（館長）】 次に、当館学芸員を紹介いたします。鈴木学芸員です。

【鈴木学芸員】 学芸員として勤務しております。よろしくお願いいたします。

【鈴木委員（館長）】 同じく、中村学芸員です。

【中村学芸員】 中村でございます。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

【鈴木委員（館長）】 本協議会では、主に学芸員から説明等を行わせていただくこととなりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、次第の5番目の正副会長の互選です。会長、副会長の互選につきましては、小金井市立はげの森美術館施行規則第6条第1項の規定により、委員の互選によることとなっております。会長について、どなたか立候補、またはご推薦がございましたら、お願いいたします。

【山村委員】 すいません。毎度、鉄矢先生にお願いしているんですけども、やはり、今回も会長をやっていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【鈴木委員（館長）】 ただいま山村委員より、鉄矢委員を会長にとのお話がございました。鉄矢委員に会長をお願いすることにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

【鈴木委員（館長）】 よろしいでしょうか。ご異議がございませんので、鉄矢委員を会長とすることと決定いたします。

それでは、鉄矢会長から一言ご挨拶をお願いいたします。

【鉄矢会長】 今年度も引き続き、1つでも多くのこと、1つでも多くの場所をよりよくできればと思っております。そういう意味でも、美術館ですので、1つでも多くの展覧会、それから、1つでも多くのワークショップとかイベント事がよりよくなるように、委員全員の力を引き出せるように努めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【鈴木委員（館長）】 ありがとうございます。

それでは、会長が選任されましたので、今後の進行につきましては会長にお譲りしたいと思います。それでは、鉄矢会長、よろしくお願いいたします。

【鉄矢会長】 では、今度は副会長の選出を行います。どなたか立候補またはご推薦ありましたら、お願いいたします。

【鈴木委員（館長）】 推薦でお願いしたいのですが、同じく学識経験枠で委員となられておられます山村委員を副会長に推薦いたします。

【鉄矢会長】 ただいま鈴木委員より、山村委員を副会長にとのお話がございました。

山村委員に副会長をお願いすることにご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【鉄矢会長】 ご異議ないようですので、山村委員を副会長とすることに決定いたします。

山村副会長から一言ご挨拶をお願いします。

【山村委員】 はい。ということで、前回に引き続きまして副会長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。それでは、これからこの後の議題に入る前に、配付資料の確認を事務局のほうでお願いいたします。

【事務局(永井)】 では、事務局よりご説明させていただきます。本日の次第と資料1、「開催した展覧会・ワークショップ等について」。それから資料2が、年間スケジュール。資料3が、開催したワークショップのアンケート。資料4が、「平成30年度予算状況について」となっております。

それから、茶室「花侵庵」についての資料がございます。まず「佐藤秀三によって設計された旧中村研一郎主屋の空間意匠に関する考察」というタイトルの資料、そして「中村研一と'はけ'の棲家」というタイトルの資料となっております。さらに、はけの森美術館の年報と広島廿日市で開催されています共同巡回展のチラシを配布させていただいております。

配付資料については以上となっております。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。

それでは、次の議題に進みたいと思います。次第の6番になります。運営協議会の運営等について、事務局から説明をお願いします。

【事務局(永井)】 それでは、引き続き、本会議の運営についてご説明させていただきます。

会議は年4回開催予定で、開催時期はおおむね5月、8月、11月、そして2月ぐらいを予定しております。

会議の内容については、事業の報告と今後の予定についてのご説明が中心となっております。事業の報告は、前回の会議開催以降に実施した展覧会やワークショップなどについてお話をさせていただくもので、今後の予定については、これから開催される事業等について事前に説明をさせていただくものです。それぞれ、担当の学芸員を中心にご説明させて

いただいて、その上で皆様からご意見があればいただく形となっております。

そして、最後に会議録と会議の傍聴についてですが、会議録は発言者名を明記した全文記録になります。そして、会議については原則公開となっており、傍聴も基本的には認めております。会議録は委員の皆様のご校正をいただいた後でホームページに公開させていただいておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

事務局からは以上です。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。ご質問ないですね。

では、7番目の事業実施報告について、事務局から説明をお願いします。

【鈴木学芸員】 では、配付資料の資料1をごらんください。開催した展覧会・ワークショップ等についてご説明させていただきます。

まず、(1)展覧会といたしまして、先ほど委員の先生方にはご覧いただきましたが、所蔵作品展「中村研一の制作—日常風景とともに」が5月13日で終了いたしました。展覧会の休館は月曜日と5月1日で、最終的に、大人が961人、子供は103人、43日間で全体としては1,064人のお客様に入ってくださいました。そして、イベントとしてはギャラリートークとワークショップを行いました。まず、ギャラリートークは、4月14日の土曜日と5月12日に2回行いまして、4月は参加者が8人、そして、5月は参加者が24人と、多くのお客様に参加いただきました。今回は新収蔵品も展示されていたので、トークに参加していただいた方から多くの質問などもいただき、反応もよく、盛況なギャラリートークになってよかったと思います。

2つ目のイベントとしては、こごうちぶんこさんのお力もかりて、「親子で楽しむ工作の時間」というワークショップを行いました。このワークショップは、紙粘土で、はげの森に住む想像上の動物を制作するという内容でした。参加者は16人で、大人が8人、子供が8人でした

アンケートの結果が資料3でございますが、小さなお子さんも大人の方も楽しみながら制作でき、楽しんでくださった、そういう印象を受けました。

また展覧会の開催中、教育普及事業として鑑賞教室が5月9日に行われました。このときは南小学校の小学4年生の方がお越しくださいませ、数点の作品を見て、生徒さんの意見を述べあっていただき、楽しく鑑賞教室を行いました

また、会期中、附属喫茶棟「musashino はげの森カフェ」との相互利用サービスを行いました。展示された中村研一の作品に、レモンをアクセントに配したものが多かったという

こともありまして、そのレモンをイメージして、「レモンとポピーシードケーキ」という特別メニューを musashino はけの森カフェさんにつくっていただきました。そして、喫茶棟の利用時に、美術館で展覧会を鑑賞した半券を提示してこのメニューを注文すると、代金の割引を適用しまして、また、美術館では、逆に喫茶棟の利用レシートを示すと、ポストカードのプレゼントを行うという形で、双方の利用を促進するというサービスを行いました。実際に、期間中の利用者は、喫茶棟では4月が3人、5月は11人、延べ14人のご利用がありました。美術館では、4月に1人、5月に5人の利用で、延べ6人でした。今回、このような相互利用サービスを行いましたところ、お客様のご利用も多かったのですが、今後もこのような相互利用サービスを行うことはいい形になるのではないかなと考えています。

その他ですが、所蔵作品を引き続きお貸ししています。現在、新居浜市美術館に巡回されている、「没後50年 中村研一展」に、中村研一の「フランス婦人像」、「シンガポールへの道」といった代表作品を貸し出ししています。

そして、この新居浜市美術館では、まず、先の4月28日に学芸顧問の薩摩先生が講演を行われました。その後、新居浜市美術館の名誉館長でいらっしゃる青柳先生と薩摩先生が対談をしたという形であったと伺っております。

また、私も今度の5月26日、ギャラリートークを行います。このような形で当館は作品貸し出しとともに、イベントに関してもご協力させていただいております。

【薩摩学芸顧問】 ちょっとよろしいですか。補足です。新居浜市に行ってまいりまして、展覧会も拝見させていただいて、こういう中村研一のような官展系の作家で、いわゆるドラマチックな人生があったというわけではない、そういう人の展覧会というのはなかなか難しいのですけれども、福岡と新居浜はよくあれだけつくってくれたなと感心しました。特に、戦前の研一の作品が、代々木のアトリエが焼けて、ない、ないということなんです。一生懸命全国から集めればこれだけそろうのだということがわかったのと、それから、やはり中村研一が、ここにはそういう絵がないんですけれども、間違いなくフランスのアカデミズムをきちっと学んで、大画面の複雑な構成をしっかりとつくり出すことができる作家であったということは再認識されたのではないかと思います。よく、日本の油絵は、戦争画において初めて大画面、そして、たくさんの人物が出てくる大構想画みたいなものが実現したという人がいるんですけれども、絶対そんなことはない。中村研一は、それ以前にもうできていて、それができているから戦争画をあれだけ依頼されたということは、

もう間違いないことだと思えます。そういう意味で、非常に意義のある展覧会だったと思っておりますし、大画面の絵を4点ぐらいここに持ってくれば、十分迫力がありますので、そのうちにこういうふうにやってみてもいいのかなと思った次第です。

以上ご報告でございます。

【鉄矢会長】 今までの実施報告です。何か質問、ご意見等あればお願いいたします。

【山村委員】 この展覧会の図録を見せていただければ。

【鈴木学芸員】 今持ってきます。

【鉄矢会長】 ほかに何かございますか。なければ進めてよろしいですか。次第8番目の、平成30年度の事業予定と予算についてお願いします。

【中村学芸員】 では、事業予定につきましては、私のほうから説明させていただきます。

資料1の続きのところになりますが、今後開催予定の展覧会について説明させていただきます。

企画展としましては、この後、夏、8月4日から、「平成29・30年度市町村立美術館活性化事業 第18回共同巡回展 絵画で国立公園めぐり—巨匠が描いた日本の自然—」という、ちょっと長いタイトルですけれども、こういった展示を予定しております。こちらが、タイトルにありますとおり、巡回展になっておりまして、今ちょうど廿日市のほうで開催されているものが小金井に回ってくる予定でございます。廿日市のチラシがお手元でございますので、ご確認いただければと思いますけれども、日光にございます小杉放菴記念日光美術館で所蔵している、国立公園を描いた風景画80点が展示されると、そういう展示になっております。こちらの展示に関しましては、去年からずっと4館共同で準備を進めてきたものでして、80点の国立公園を描いた絵画で、日本全国の風景を紹介するのです。80点あるんですけれども、小金井市立はけの森美術館では、80点一気に出すようなスペースがございませんので、40点、40点に分けて、前期、後期で展示をする予定でいます。少しせわしないですけれども、8月4日から9月17日までの会期を前期、後期で割って展示をする予定でおります。今、お手元にあるのは廿日市のチラシですが、現在、小金井市立はけの森美術館バージョンというのも校正を進めているところでして、でき上がり次第、皆様にご案内できるかと思えます。

巡回展のそれぞれのスケジュールに関しましては、こちらは資料1に記載しておりますとおりになっております。

その後の企画展②に関しましては、こちらはまだちょっと仮称になっておりますけれども、台東区が所蔵している敦煌莫高窟の壁画の模写と法隆寺の金堂壁画の模写を借用させていただきますまして、展示をしようということ考えております。壁画の模写で、オリジナルが来るわけではないんですけれども、ただ、この壁画を模写するということをなぜするのかや、あるいは、この壁画に描かれている浄土というものが、仏というものを考えるにあたって非常に重要なものであるということ、ぱっと見、取っつきにくい、わかりづらいものである絵をどういうふうに見ていけるかという、そういう入門編みたいな展示をしたいということで、現在準備を進めているところでございます。

企画展に関しましては、この2件が今後のものとして予定されております。

この後、教育普及事業に関しましては、記載しておりますとおり、鑑賞教室が各企画展に合わせて実施される予定になっております。それぞれの学校のスケジュールは記載のとおりです。幾つかの学校からは事前授業の希望も出ておりますので、時期が近づいてきましたら、事前授業のこともあわせてご報告できるかと思っております。

また、まだ、今調整中ですので記載しておりませんが、各企画展の中で、ワークショップですとかイベントといったものも考えておまして、こちらも決まり次第、今後の運協の中で報告させていただければと思います。

事業に関しましては以上です。

【鉄矢会長】 予算について、一緒をお願いします。

【事務局（永井）】 それでは、平成30年度予算状況についてという資料をごらんください。

今年度のはけの森美術館の予算についてですが、こちらの資料に記載されているとおり、3,386万1,000円というのが総額になっておまして、全体的に見ますと、昨年度平成29年度から比べて271万3,000円の増額となっております。

簡単にそれぞれの事業の予算の特徴を申し上げます。まず、はけの森美術館の運営に要する経費の中で、オリジナルグッズの製作についての予算を計上していますが、昨年はトートバッグを2種類作り、ことしはガラスのマグネットの製作を予定しています。

そして、はけの森美術館維持管理に要する経費の中で、緊急修繕料という部分が増額となっております。こちらの建物も建ってから約30年ということで、修繕を必要とするところが増えてはいるんですが、これまでは年間20万円の予算で、なかなか修繕し切れず、予算を流用しながら対応してまいりました。今年度は些少ですが、増額が認められており

ます。

さらにははけの森美術館の事業に要する経費の中では、先ほど学芸員のほうからもご説明があったとおり、本年度は一般財団法人地域創造の助成を受けて、第18回共同巡回展を開催いたしますので、その費用が予算計上されています。

最後になりますが、今年度は残念ながら文化庁の助成金が不採択となってしまいました。今まで助成金のほうで広報費とかを充実させてきたところなので、ことしは少ない広報費でどこまで集客を呼び込めるかというのが課題となっております。ただ、前回のこちら会議のときに皆様からお知恵を拝借し、次の展覧会では市内の広報掲示板やココバスなどにポスターを掲示させていただく予定です。

予算状況については、簡単ですが、以上です。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。

何か質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。

【上原委員】 地域創造助成第18回共同巡回展ということは、10月から行われる、どういう意味なんですかということの確認です。

【中村学芸員】 こちらですけれども、地域創造という一般財団法人が、市町村立施設向けの助成をずっとやっておりまして、この18回目の助成のプランに当館も参加するという形をとっております。

どういうものかざっくり言ってしまうと、市町村立の比較的小規模である美術館ですと、なかなか1館だけの体力では大きな企画展を企画したりですとか、そういうことをするのが難しい。まとまったコレクションを借りてくるにも、そのための人員が足りないのです、借りてくるということもできない。ではそういった比較的小規模の館が共同して巡回展を企画することで、ふだんできないようなちょっと大きいものやろうという、そういう内容になっています。

18回目がこちらの国立公園の絵画を展示するというプランになっておりまして、去年の準備の段階から参加し、内容を4館で詰めてきました。参加する4館は、廿日市を皮切りに、その後、瀬戸市美術館に回りまして、3番目が当館小金井市立はけの森美術館、4館目が釧路の釧路市美術館という、その4館での企画になります。

【上原委員】 よくわかりました。ありがとうございます。

【鉄矢会長】 そのほかにごございますでしょうか。

これ、すごいおもしろい時代背景のときにおもしろいことやってるんですね。

【中村学芸員】 そうなんです。非常におもしろいコレクションですし、ただ国立公園を漫然と画家が描いたというものではなくて、もともと最初に目的があって、この絵のコレクションをつくろうとしてつくっている。そして、最終的に80点にもなっているという意味では、非常におもしろい展示になると思います。

【鉄矢会長】 今、日光美術館がこれを全部持っているということなんです。

【中村学芸員】 はい。もともと国立公園協会というところがつくってほしいという依頼をしまして、そこがずっと持っていたんですが、国立公園協会が解散するということになって、80点まとめて引き取ってくれるところということで日光が引き取ったと聞いています。

【鉄矢会長】 最初の26点とその他の54点は随分雰囲気違うんですか。

【中村学芸員】 やはり時代時代でつくっているところがあります。大きく分けて4回制作の契機があり、最初の26点というのは、結構好評だったんですね。それで、この後、一、二年後に2回目の契機が来て、このときに中村研一も参加をして、大雪山を描いております。

【鉄矢会長】 それが1934年のもの。

【中村学芸員】 はい。その後、戦争があつたりしたので、なかなかまとまった数ができなかつたんですけれども。戦後に入ってまた、国立公園ブームみたいなことが起きたときに、やはり制作契機が来て、その後、随時国立公園が新しく指定されるたびに幾つか追加がされまして、これを合わせて計80点という、そういうコレクションです。

【鉄矢会長】 戦前から戦後にかけて。

【中村学芸員】 そうですね。見ていくと昭和の時代が絵から見えてくるという、そういう展示でもあります。

【鉄矢会長】 同じ作家も描いてるんですか。

【中村学芸員】 いえ、1人1枚で全部違います。

【鉄矢会長】 全部違うの。

【中村学芸員】 はい。

【鉄矢会長】 すいません、おもしろいところで、つい熱中して聞いちゃいました。

ほかにご質問等ございますでしょうか。

【山村委員】 ただ聞くだけなんですけど、今年のラインナップ、国立公園の風景画、それから、法隆寺金堂とか台東区の敦煌莫高窟壁画の模写の展覧会、こういうラインナッ

ブになった経緯というか、あと今後の予定も含めて、どんな感じで決まっているのか、ぱっと全部教えてください。

【中村学芸員】 まず、こちらの国立公園のほうの絵画は、中村研一が描いているということが、まず参加してみたいと思ったきっかけではあるんですけども、中村研一以外の作家も見ていきますと、弟の中村琢二も描いていますし、去年展示をやった児島善三郎も描いている。それから、田村一男という過去にここで企画展をやった人もおりますし、多くの中村研一と同世代に関わりのあった画家たちというのが参加している。そういった意味では、ほんとに昭和の洋画壇というのが80年に凝縮された展示になっているということです。中村研一がただ単純に参加しているということだけではなくて、やはり中村研一とそれを取り巻く洋画壇がわかるという、そういう展示になっているんじゃないかと。参加している画家たちというものの関係に興味を持ってこの企画に参加しているという形になります。

2番目の壁画のほうに関しましては、こちらの壁画は模写ですが、東京芸大では、学生の古画学習の一環、つまり古い美術を学びその美術に使われている技術を自分のものにするために模写をする。そういうことが、東京美術学校の時代からずっと行われてきました。つまりある意味、中村研一が画家になっていく過程でも古画学習は重要だったわけですから、そういった部分を考える上でも、面白いのではないかと。一見すると仏教のことでこの美術館とかかわりないように見えるんですけども、今回こういった形で取り組んでおります。

【薩摩学芸顧問】 よろしいですか。芸大の名前が出てきたのでちょっと補足いたしますと、とにかくここはこういう小さな美術館で展示室も狭いということもありまして、と同時にこんな小さな美術館でありながらも、かなり全国的に存在感を持っているというのはやはり中村研一のコレクションがあるから。そして、コレクションがあつてコレクションのことをやってるから結構この10年の間に新発見というか寄贈というか、そういうものが来ているということで、なるべく知られていない、あるいはあまり見る機会がないとか、そういうコレクションを紹介するというのがこの美術館の1つの方針になっているということです。

この敦煌莫高窟とこれはですね、芸大美校は今、油のほうはやりませんけれども、ずっと模写というのを随分やってきてたんですね。日本画はずっとまだ模写を続けてまして、この敦煌莫高窟、法隆寺、法隆寺はあまり点数ないんですが、これはもう実は30年ぐら

い前の模写で、20年から30年前、平山先生が陣頭指揮をとってたときなので、大変質が高いものなんです。それで台東区が買い上げてまして、これは大変おもしろいものなので、同じ東京都の中の区と市ということもあって、協力関係でやっていきたいと思いますということになったもので、あとはどういう視点でどう切り口を持って行くかが学芸員の手腕になるかとは思いますが、内容的には非常に高いものです。というのは、本場のほうが、この30年の間に本物が傷んでますから、こちらの模写が大変貴重な記録になるのです。

【山村委員】 質問したのは、ちょうどここに年報があるから。年度の1回目が所蔵品展で、2回目の企画展が26年度は河野通勢と中村研一、27年度は串田孫一の展覧会、それから28年度は郡山から借りてきたイギリス風景画という形で、この美術館、小金井市にゆかりのある作家か、郡山のときは風景画のデッサンみたいな感じだったんですけども、今回芸大ということではあるんですけど、何かその、所蔵品展の展開というのと、もう一本についての何か流れというか、そういう色をつけてほしいなと思っているので、なかなか思ったようにできないとは思いますが、例えば敦煌の壁画、それから、描いてる、模写してる作家もいろいろいると思うので、その中で小金井とか風景画とか多摩地域とか何か一貫した色がつけられればいいなと思っているので、何か工夫していただければなと思っていますので、ちょっと何も出ないかもしれないけど、ラインナップでできそうになっているので、ここらしい何というか模写展というか、切り口でやってほしいと思っていますので、よろしくお願いします。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。最近やってたんでしたっけ、美術館の模写しよう、中村研一の絵を模写しよう。

【鈴木学芸員】 最近はあまり。

【中村学芸員】 そうですね、ここ3年度ぐらいはちょっと模写のワークショップというのを実施していないのです。アニメーションの技法を使って背景の美術を使って描いてみる、模写をするというよりかはその場で描いてみるという、そういうようなワークショップのほうが多くなっています。

【鉄矢会長】 山村先生の意見を聞きながら、何かつながりがないかなと、ちょっと探してみました。

ほかにご質問等ございますか。

なければ、その他でいいんですかね。その他について、茶室花侵庵についてですね。花侵庵についての資料がありますので、そちらの説明をお願いします。

【事務局（吉川）】 それでは、花侵庵についていろいろとご心配していただいておりますけれども、少し進展がございましたのでご報告させていただきます。

ついでに資料が2016年に東京理科大学の伊藤裕久先生の研究室に調査をしていただいた結果で、主屋と花侵庵と茶室の2つの資料をつけてあります。一番最後にくっついてあるグリーンのチラシは、川崎委員にもおいでいただきましたけれども、この3月21日にちょうど所蔵展が始まる前に、プレということで、調査もありましたことから、伊藤裕久先生と、あとは府中美術館の館長の藪野先生においでいただきまして、「建物とそこで暮らした画家の暮らし」という内容でトークイベントをさせていただきました。

春の一日をお楽しみくださいみたいなコピーで広報したら雪が降ってしまいまして、もう私は朝から、お客さんは来てくれるんだろうかと胃が痛かったんですけども、喫茶棟のスペースが満員になるほどお客さんに来ていただきまして、身動きがとれないような感じになりました。お申し込みは15人だったんですが、そのあと、急遽来てくださった方もいらっしゃいまして、やっぱり喫茶棟のスペースだと25人はきついんだなというのがわかりました。ここだと20人まででないと、お飲み物を出してトークをするのはちょっと厳しいかなという感じでしたけれども、大変盛況で、次の所蔵展に向けてもいいプレ企画だったかなというふうには思っております。

その調査を踏まえまして、生涯学習課の文化財係が、東京都へ、私がずっとやりたかった登録有形文化財の登録に向けて申請をしてくれたんですね。それで、やっと今回、2月に都が、ことしの登録有形文化財のラインナップの中に入れてくれるという返事が来ましたので、ちょうど明日、明後日、文化庁と東京都の教育庁が調査に来ます。館長と薩摩先生と私で対応します。あと生涯学習課の文化財係の学芸員が立ち会います。喫茶棟と、両方調査に来ますので、どういう結果になるかわからないんですが、ぜひ登録有形文化財になってほしいというふうに期待はしております。伊藤先生の調査がかなり有力なプッシュの材料にはなっているようですし、旧宅を利用して喫茶棟を運営しているというところもかなりいい材料にはなっているようですので、登録有形文化財が決まったらまた修復の関係のほうにも話が進められるかなとは思っております。なので、また調査の結果等々は、今後の運協の中でまたご報告させていただければなと思っておりますので、楽しみにしてください。よろしく願いいたします。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。

どなたかご意見ありましたらお願いします。

【事務局（吉川）】 もうひとつ説明するのを忘れました。この黄色いほうのチラシは、伊藤先生の研究室の学生さんがパンフレットをつくってくださいますので、ぜひ美術館でお配りしたいというありがたいお申し出をいただきましたので、今、研一の画家としての内容について学芸員の2人で校正しておりますので、でき上がりましたら、美術館のほうでお配りするよう形になると思います。

【山村委員】 はい。これは学生さんがつくっている？

【事務局（吉川）】 学生さんがつくって伊藤先生が監修しています。

【鉄矢会長】 わかりました。ありがとうございます。

ほかにご意見等ございますでしょうか。

では、委員の方々の意見交換に移りたいと思います。では、皆さん、意見交換をしたいと思いますので、どなたからでも口火を切っていただいて構わないんですけども、という難しいと思いますので、私がキャッチボールの第一球目を、館長から投げさせていただいて。

【鈴木委員（館長）】 自分も全く専門ではないので、手探りといいますか、1年やってきて2年目になるわけですけども、この運協で皆さんからいろいろいただくご意見が、いろいろ例えば展覧会の集客に向けてのヒントになったりとか、あるいは関連イベントの何か、うまい、同じようなヒントになったりとかというのはあるというのは感じているところですので、ぜひ委員の皆さんにおかれましては、そういう助言みたいなのをいただくと、運営していく上での材料が増えてくるなというふうに感じております。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。じゃあ、お話を受けて。

【川崎委員】 紙粘土のワークショップ「親子で楽しむ工作の時間」に子供と一緒に参加させていただいて、「こごうちぶんこ」さんが講師だったんですけども、やっぱり皆さんすごい楽しんで参加されていて、私もお友達を誘って、4組は友達だったんですけど、皆さんすごいまた行きたいって言ってくださって、ふだん多分美術館に来たことがない方も初めて声をかけたら来てくださったので、最初、ワークショップきっかけでも、それからまた、ちょっと気にかけるポイントになってもらえたらなというのがありました。

あと、「こごうちぶんこ」さんは地元の近くで活動されている方たちなんですけど、今後ワークショップを依頼されるときとかに、この近くでもはげの朝市とか、はらっぱ祭りなどでワークショップをたくさんやられている方が近隣にいらっしゃって、私、知り合いではないんですけども、「遊びと暮らしのまるさんかくしかく」さんとか、「山小屋」さんと

いう方とか、木の枝で鉛筆をつくったりとか、粘土で形をつくってから七輪で焼き物をしたりとか、あとシルクスクリーンを使って簡単にバックをつくったりとか、子供か割と手軽に短い時間でできるワークショップを結構毎回違う形でやっている方もいらっしゃるの、何か小金井で活動されている方にワークショップを依頼していただけたら、その周りのお知り合いの方とかにも多分声がかかって集客にもつながるのかなというのは思いました。やっぱりふだん「こごうちぶんこ」さんに行ってる方も結構やっぱりそのまま美術館に來たりされてたりもしたので、何か親しみがあると来やすいかなというのはあります。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。そうですね。どうやって親しみをすり込んでいくか、それとあと学芸員のスケジュールが増えないまま、タイミングですり込みが市民に広がるようなことができるといいですね。

いかがでしょうか。

【浜田委員】 私は茶室が気になってるんですが、小金井と言えば黄金の泉湧く井戸の水で、それで中村先生はお茶を飲まれたということで、これが何かで使えるんだったらすきだなと思うんですが、現状を教えてくださいませんか。

【事務局（吉川）】 現状はですね、相当老朽化しています。

【浜田委員】 そうなんですね。

【事務局（吉川）】 明日、明後日と調査が入るので、きょう私は掃除をいたしました、今の状態だと、根太が緩くなっている、あんまり何人も入れる状態ではないですね。ですが、文化財として修復をして、二中にたしか茶道部があったと思うので、二中の生徒さんとかにお披露目のときは使っていただいたりできたらいいなというドリームプランは持っておりますけれども、現状はほんとに今、危ないです。なので、文化財登録をされて修復の費用がつかないと、床が抜けるかもしれないというくらい、ほんとうに悲しい状態になっています。すごく貴重な建物だと建築の専門家の先生たちはおっしゃるんですけども、なかなか修復の予算がとれず、財政計画に6年ぐらい載せてるんですけども、ずっと延伸のままで来ているので、ここでどうにかしないと。

【鉄矢会長】 登録文化財になるというのが励みになって。

【事務局（吉川）】 そうですね。登録文化財になると、設計費だけではなくて少し変わって、修復の補助を半分程度というふうに変ったので、今、生涯学習課と頑張ろうとか言ってるんですけど。そんな状況でございます。

【浜田委員】 わかりました。ありがとうございます。楽しみに。

【事務局（吉川）】 応援してください。

【上原委員】 この企画展「絵画で国立公園めぐり」そしてまた、「ほとけのくに一台東区所蔵 敦煌莫高窟壁画模写と法隆寺金堂壁画模写に見る浄土の景」があります。おそらくまた、ギャラリートークとかいろいろなイベントを企画されていかれると思うんですけども、そのときにできるだけ参加しやすい時間だとか、それとか、ちょっと気になるのは、30分だけですよ、実際ここに書いてあるのは、14時から14時30分です。30分という時間が充実したそういうお話が聞けるのかなと、まだ聞いたことがないのでわからないんですけども、私ならもし自分が聞きたいならば1時間とかもう少し充実、内容濃いとか、のほううれしいかもしれないとか。

【鉄矢会長】 立ったまま聞くんですよ。

【鈴木学芸員】 展示室で立ったまま話しますので、お客様によっては長いと難しいという方もいらっしゃると思いますので、30分をめぐりにしていますが、実際にはもうちょっと長い時間になることもあります。

【中村学芸員】 そのときに参加している方の反応を見ながらこちらもギャラリートークをしているところはありますので、やっぱりちょっと集中力が切れてきたかなとか、疲れてきた人が多いなと思ったら、できるだけ30分の中できれいに終わらせるときもあります。熱心に聞いてくださっている方が多くてまだまだ聞きたいという方が多いようであれば、少し、30分を超過して話したりというところは、ほんとうにそのとき状況を見ながらという形ですね。

【上原委員】 ありがとうございます。

【鉄矢会長】 山村先生。

【山村委員】 先ほどカタログを拝見して、新居浜市美術館、中村研一というのは、なかなか立派なカタログでということだと思いますし、また新居浜のほうでは薩摩先生が講演されて、鈴木さんがトークをするということで、この展覧会にも貢献されてるというふうに思いますけれども、できればカタログにもうちょっとこっちの知見が入ればよかったかなと。

【鈴木学芸員】 そうですね。そういったご協力もできたとは思いますが、実際にはそういったお話はなかったものですから。

【山村委員】 またここも巡回展なのでちょっとまた違うんだろうけどもね。

【鈴木学芸員】 そうですね。カタログを見ましたところ、内容や表記について当館が

ご協力できる場所もあったのかな、と思っています。

【山村委員】 出身地とそれから生涯の半分を過ごしたところと、両方その地域の美術館で協力してやるのがいいかなと思うし、規模的になかなか難しいところもあるんだろうと思いますが、ちょっと残念だなという気がします。

【鈴木学芸員】 私たちとしても残念に思っています。

【事務局（吉川）】 その辺の話は事務方としてもかなりしてるんですけども、残念でした。

【山村委員】 残念です。

【鈴木学芸員】 本当に残念でした。

【山村委員】 中村研一だけじゃなくて、児島善三郎も九州、福岡から出てきて多摩地域に住んでいるという、何か流れみたいなのがあって、両方でやるとほんとに何か、時代も特色もわかっていいと思うんですけども、まあしょうがないかなと思います。

それと、さっきの茶室というか、中村研一が何というか建てた、佐藤秀三が戦後すぐにつくられたという、建築としても非常に価値があるとこの研究でもわかって、前に進んで非常にすばらしいと思うんですけども、今、例えば東京都のほうでいけば、庭園美術館とか、東京都美術館も前川國男という建築家の、そういう建築に絡んだいろんな美術館の楽しみ方というか、ここはお庭もある、水場もある、一般の人にすごくアピールするところとして、その空間を楽しむとかね、ここの売り物というか、非常に今後を左右するですね、貴重な機会だと思うので、ぜひぜひですね、修復のほうも含めて、積極的に市としても取り組んでいただいでですね、そうするとここ、美術館のほうだけじゃなくて、やっぱり旧母屋と茶室、それから庭全体が時がたてばたつほどに価値が出てくるというか、佐藤秀三のほうについてよく知らないんですけども、時間がたつごとにそれは注目されるというか、ここはけになって水が湧いて、村があって、戦後すぐ人が住んで、それこそ九州から移り住んできた画家が住んでること自体、この歴史というのがすごく価値があるんだと思いますので、ぜひ、結構なくなっているアトリエとか、戦後すぐの建物ってどんどん取り壊されているところがあるので、すごく逆に貴重になってきていると思いますので、ぜひ特色として残してほしいなと思います。そういう研究と保存というのがセットになっていますので。

【事務局（吉川）】 なかなかその、ほんとうに研究だけでは難しいんですけども、あまりその手は使いたくないなと思いつつ今回、観光促進という形の助成のほうで手を挙

げようかなと思っているんですね。今、先生おっしゃったとおり、この一帯を大人の休日の隠れ家みたいな形のイメージでとらえて、そういうコンセプトで、美術館とお庭も含め一帯でどういうことができるのかということ、喫茶棟の応援事業者を募集したときは、それをコンセプトにしていますので、この後、いろいろもっといろんなことができるようになるかなと思いましたがけれども、やはり一帯を残すということはとっても貴重なことだと思いますので、その辺で観光促進的にもアピールしていければいいかなと思っています。

【山村委員】　それで東京都美術館で委託して、東京都の歴史文化財団というところで委託して、結構大きいアンケートをやって、500サンプル以上たしかとって、どういうところを楽しんでるかということがあって、案外作品そのものというより空間を、日常の空間とはちょっと違うその空間を、だから建築だとか周りの雰囲気だとか緑だとか庭だとか、そういうところを楽しんでる人が、案外多いんですね。案外というか非常に多い。私なんて美術の専門だからそっちばかり行っちゃうんだけど、そうじゃない建築、空間、庭、環境というか、そういう非日常のところを楽しむ、そこを目的に行くという人が結構多いんですね。だから観光という視点だけではなくて、何というか、何を人は求めて来ているのかという、人より美術館体験、幸福感の何かベースになるものについて、ぜひ今後、復元、修復とか、大事に考えていただければと思います。庭園美術館のほうでも全然そうじゃないですけど、すごくいい今、修復ができてるじゃないですか。エレベーターができて、バリアフリーになりましたし、本当に庭も立派なので、そういうところはいいところだなと思っていますので、ぜひ修復の予算をつけていただいて、補助金をもらっていただいて。

【鉄矢会長】　ありがとうございます。

今のお話、私ちょっと近いんですけども、ここ最近おもしろいものって実はない。おもしろいものであって、おもしろいものって実はおもしろがる人がいるからおもしろくなるので、おもしろがる会というのがあるんですよ。小さな田舎をおもしろがる会とか日本橋をおもしろがる会とか、この間、調布おもしろ学会とか言ってやって、彼らのやっぱり発信力のすごさと、おもしろがろうと思うエネルギーというのはすごいなってちょっと思っていて、でもまねするところってその辺かなって思っていて、やはりこの「アートフルアクション」さんなんかも、自分たちのことになっちゃったら急におもしろがられなくなっちゃったのかなと思って、自分たちがあそこに、運営に入った途端に。ほんとはあの人たちもおもしろがる力持ってて、おもしろがって外に発信していいよというふうに言う

と、このさっきのレモン何とかポピーシードケーキも、もっと出ないのか、もっと出ちゃうと困っちゃったのかもしれないなと思いながら、もっとその辺がおもしろがれそうなネタですし、実際この、やっぱり庭の部分って、意外とこの建物が目の前にどーんとあって、奥に入らないし、おもしろがれないような状況になってるけど、もう少しおもしろがる格好で、学芸員とかコミュニティ文化課が簡単にSNSにおもしろがって出せないというのを、どういうふうにおもしろがらせるのかという、おもしろがって外に出す人たちを周りにつくるのかって言ったら、もしかしたらレストランかもしれないですね。レストランの人たちがもっと自由におもしろがって外に発信していくといいんじゃないかなという気もしました。きっとはけの森美術館はもっとおもしろいと思っています。そんなふうに思います。

ほかに皆さんございますか。

委員の方々から幾つかの意見も出ましたので、事務局のほうでも参考にさせていただければと思います。この議題についてはこれで終了いたします。

次に、次回の日程調整について、事務局からお願いいたします。

【事務局（永井）】 その前に事務局より会議録の校正のご案内をさせていただきます。

前回から引き続き委員になられている皆様のお手元には、前回の会議録の案を配付させていただきました。修正などございましたら、6月5日火曜日までにコミュニティ文化課へご連絡ください。ご連絡方法は、郵送、FAX、メール、また直接お持ちいただいても大丈夫です。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。では、次回の運営協議会の日程を決めたいと思います。

～（日程調整）～

【鉄矢会長】 では、次回は8月7日火曜日18時30分からということでよろしくお願いたします。

ほかに何かございますでしょうか。

なければ以上ではけの森美術館運営協議会を終了します。どうもありがとうございました。

— 了 —